

震災時の通水状況等の 住民への情報提供 について教えてください

Answer

1. はじめに

近年、震災時におけるライフラインの重要性が認識されてきています。中でも水は生命維持に欠かせないため、水道の通水状況については、多くの人々が関心を持っています。

そこで、東京都水道局では、震災時にホームページにて、都内の断水・通水状況を迅速に地図情報で提供するため、「震災マッピングシステム」を構築し、令和2年5月に供用を開始しました。

2. 提供情報と作成方法

(1) 提供する情報

ホームページにて、区市町単位と区市町内の地域別に、通水割合を画像で提供します。画像は、通水割合3割未満を赤色、3割以上9割未満をオレンジ色、9割以上を青色、調査中のエリアを白色、の4段階に色分けし、視覚的にわかりやすくなるよう、工夫をしています。



図1 通水割合画像 (HP公開画像)

はじめに区市町別の通水割合が表示され、該当する区市町をクリックすると、さらに詳細な地域別の状況を確認することができます (図1)。

(2) 画像の作成

画像の作成に当たっては、お客さま等から寄せられた断濁水等の通報情報や、職員が現地を確認した管路被害の情報などから、断水範囲を判断して、システムに登録します (図2)。

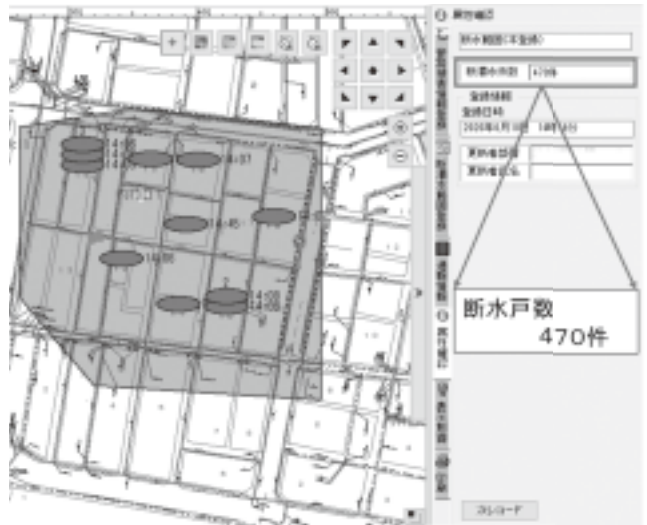


図2 断水範囲の入力

断水範囲を登録すると、範囲内の断水戸数が算出されます。さらにその情報を基に、区市町や地域別の通水割合 (= (全戸数 - 断水戸数) / 全戸数) を自動算出し、提供する通水割合画像 (図1) が作成されます。

このように、通報情報などの被害情報の登録から、断水範囲の登録、通水割合画像の作成までを、同一システム内で作業するため、迅速な情報提供が可能となっています。

3. おわりに

本システムにより、震災時の断水・通水状況を、視覚的な情報として提供できるようになりました。引き続き、SNSの進歩やICT機器導入の動向を踏まえ、より効率的、効果的な情報提供について検討、開発に努めてまいります。

(出典:水道技術ジャーナル 2022年4月)